

TOKYOENSE

Jul. 31, 2025



Red Data Plants in Tokyo：ヒメシオン 2020.8.8 日野市内

草刈り頻度の高い河川堤防や水田畔などに自生し、ミニチュアの野ギクのような愛らしさが印象的です。谷戸田などの耕作放棄により自生地は減少の一途をたどっています。

2025 年前半（1～6月）の活動報告

～都内の植物情報が日々整理・更新されています～	2
◇ハーバリウムスタディ	2
◇その他の活動.....	4

コラム

東京 Topics of Flora ② ノジトラノオ <i>Lysimachia barystachys</i> Bunge	5
文献から探る東京の植物 ② 『奥山春季植物採集記録抄』.....	6
専門員植物相調査記録	7
編集後記	8

2025 年前半（1～6月）の活動報告

～都内の植物情報が日々整理・更新されています～

東京都のデジタル版野生生物目録の作成を目指す「東京いきもの台帳プロジェクト」がスタートし、東京都立大学 牧野標本館に植物目録作成事務局が置かれて早くも二年目。事務局ではハーバリウムスタディを中心に、スマホを利用した調査記録アプリ BiomeSurvey の普及活動を進めています。2025 年 6 月末における利用登録者は 113 名に達し、島しょ部を含む都内各所で 289 個の調査が立ち上げられ、合計で 11,921 件の植物情報(写真と位置情報)が収集されています。これらのデータから、重要種・貴重種の現状を把握することに加えて、様々な植物種で新たな生育地が確認されるなどの成果も上がりはじめています。BiomeSurvey はまだ完全なものではなくバージョンアップをしながらですが、植物調査に興味のある方を中心に効果的な活用を進めていきたいと思えます。



第9回ハーバリウムスタディの様子



玉川上水位位置図(青太線)。水色線は多摩川。

2025 年度から本土部で重点的に調査を行っている場所の一つとして玉川上水緑道があり、ノジトラノオやヒトツバハギなど、特色あるフロラが成立していることがわかってきました(詳細は後述)。島しょ地域では、父島や八丈島・神津島・伊豆大島の島民の方々による調査活動が活発化してきており、その情報は BiomeSurvey を通してリアルタイムに共有されるので、島から遠く離れた事務局でも、様々な植物が見つかる楽しさを分かち合っています。さらに維管束植物に加えてコケ植物の調査活動も本格的にスタートし、ハーバリウムスタディでもコケの観察会が「岡山コケの会関東支部」の方々のご協力のもと実施されました。今後多くの方々のお力を借りて、さらに本プロジェクトを盛り上げていきたいと考えております。

◇ハーバリウムスタディ

第5回 1/9 「森林総合研究所多摩森林科学園植物相調査」

講師：設楽拓人氏・島田和則氏(森林総合研究所)

場所：森林総合研究所 多摩森林科学園 参加者：19 名

奥多摩植物誌調査プロジェクトおよび岡山コケの会関東支部のメンバーを交え、植物相調査を実施。標本採集と同時に BiomeSurvey による記録も行い、ヒメイタチシダやオニカナワラビなどのシダ類を中心に、高等植物 120 種、コケ植物約 50 種の生育が確認されました。



ヒメイタチシダ



第5回ハーバリウムスタディの様子 ミヤマノコギリシダ

第6回 1/11 『コケの観察会「BryoBlitz」』

講師:木口博史氏・古木達郎氏(公益財団法人 服部植物研究所)

場所:東京都立大キャンパス 参加者:25名

岡山コケの会関東支部との共催によるコケ入門講座を開催。座学でコケ植物の生態や生活史について学び、顕微鏡を使用してキャンパス内で採集したコケの同定にも挑戦しました。BryoBlitz (Bryo-コケの)とは、特定の地域のコケを専門家と市民が共同で調査することを表しています。



第6回ハーバリウムスタディの様子

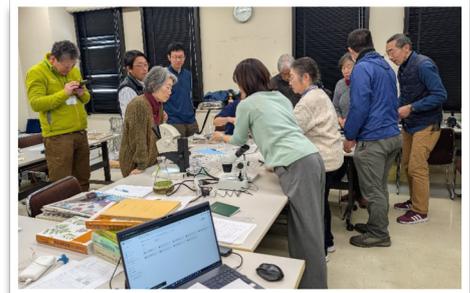


ヒメジャゴケ

第7回 2/19 ～植物なんでも鑑定団～ 植物標本同定会

講師:内野秀重(牧野標本館) 場所:牧野標本館 参加者:10名

各自が採集した植物標本や写真などを持ち寄ってのサロン形式の植物同定会を初開催。瑞穂町で採集された標本が多く提供され、また、植物同定に経験の深い参加者が含まれていたことで、有益な議論が熱心に交わされました。採集した標本を自分の知識の中だけで完結させず、さまざまな人の意見を参考に同定することの大切さを実感した会でした。



第7回ハーバリウムスタディの様子

第8回 3/26 「玉川上水緑道で春の植物調査会」

～BIOME SURVEY を使ってみよう～

担当:内野秀重・市川雅代(牧野標本館)

場所:玉川上水緑道(西武拝島・国分寺線 玉川上水駅-鷹の台駅間) 参加者:13名

BiomeSurveyの利用経験者と初体験者の合同観察会を玉川上水緑道で行いました。複数人でBiomeSurveyによる調査を実施する場合に、誰がどの植物を投稿するかなど、積極的な意思疎通が必要なことを実感しました。



クサボケ



アマナ



第8回ハーバリウムスタディの様子

第9回 4/6 「BiomeSurvey&植物標本講座」

～BiomeSurvey 記録&植物採集・プレス乾燥&標本ラベル作成～

講師:加藤英寿(牧野標本館) 場所:牧野標本館 参加者:13名

室内でBiomeSurveyアプリの登録手続きと使い方の解説を行った後、キャンパス内で実際に参加者がアプリを使って植物を撮影、投稿にチャレンジしました。また、採集した植物のプレス乾燥から標本ラベル作成まで、植物標本制作の一連の流れも体験しました。



第9回ハーバリウムスタディ(室内)の様子

**第10回 5/14 「妙正寺川から江古田川周辺、初夏の植物調査会」
～BIOME SURVEY を使ってみよう～**

担当:内野秀重・市川雅代・北野茂夫(牧野標本館)

場所:中野区内妙正寺川および江古田川流域 参加者:13名

哲学堂公園を起点に、妙正寺川や江古田川沿いの緑道、江古田の森公園や氷川神社などをめぐり、BiomeSurvey で記録しながら植物調査を実施しました。哲学堂公園でカンザンチクやウマノスズクサなどを見た後、妙正寺川沿いでキキョウソウやクサビガヤ等の外来植物を観察し、江古田の森公園ではエナシヒゴクサや水系に由来すると思われるサイカチなども記録しました。また、妙正寺川の川面からはオオカナダモやイケノミズハコベなどの外来植物に加え、アイノコイトモやホザキノフサモなどの在来水草も確認することができました。



第10回ハーバリウムスタディの様子



アイノコイトモ

**第11回 6/29 「玉川上水緑道植物調査会 part2」
～BIOME SURVEY を使ってみよう～**

担当:内野秀重・市川雅代・北野茂夫 (牧野標本館)

場所:玉川上水緑道 (西武多摩湖線をはさんだ小平市区間) 参加者:15名

玉川上水緑道の調査は春に続いて二回目。予想外に厳しい暑さの下、コースを短縮しての調査となりましたが、他ではあまり見かけないヒトツバハギやノジオカトラノオに足を止め、花盛りのノカンゾウに癒されての緑道調査となりました。アズマザサ、ツルフジバカマ、カリガネソウ、バルカンノウルシなども記録しました。



第11回ハーバリウムスタディの様子



ヒトツバハギ



ノジオカトラノオ

○ その他の教育普及活動

・父島レンジャーへの説明会(2/19)

小笠原支庁土木課と父島レンジャーに、東京いきもの台帳作成事業のご協力依頼と BiomeSurvey の使用方法を説明。株式会社バイオームの杉山氏にご同行いただき、現場での使用感を知っていただいた。

・玉川上水緑道(6/20)

「玉川上水花マップネットワーク」の野草観察会に参加。数名の方に BiomeSurvey による植物調査を体験していただいた。

◇ その他の活動

・植物多様性保全に関する情報連絡会に参加 (1/25、2/1)

神代植物公園植物多様性センター開催

・菱山忠三郎氏宅訪問 (3/2、4/18)

多摩ニュータウン開発前に多摩市和田付近に自生していたミスミソウについて聞き取り。お庭に保護されているジンバイカリソウ、ホウチャクチゴユリ等を撮影

・第2回地域フロラ談話会に参加 (5/31-6/1)

長野県大町山岳博物館にて



ジンバイカリソウ

東京 Topics of Flora ② ノジトラノオ *Lysimachia barystachys* Bunge

玉川上水緑道に咲くノジトラノオ 2025.6.13

山野に広く自生し、虎の尾状の花穂が印象的なオカトラノオ *Lysimachia clethroides* Duby は夏を告げる草本としておなじみですが、これに似た同属の植物ノジトラノオを知る人は少ないでしょう。都内の自生地は東京西部、多摩川上流の河川堤防や清瀬市の柳瀬川沿いなどごくわずかであり、板橋区、杉並区、西東京市、三鷹市などでは古い標本があるものの、自生地が消滅したか、現状が不明となっている多年草です。

筆者は、この植物が山地や丘陵地にはほとんど分布しないことから、武蔵野台地から区部の沖積地にかけての、河川沿いの草地に限って分布する植物ではないかと考えてきました。そうした中、今年 6 月初旬の玉川上水緑道の植物調査の際、小金井市域においてノジトラノオの群生地遭遇したのです。周辺域をさらに調べると、上流部の小平市域にも若干の分布があり、さらに、オカトラノオとノジトラノオの雑種であるノジオカトラノオも広範囲に分布していました。

オカトラノオの花穂
2023.6.9

さて、ノジトラノオを見分けるポイントですが、虎の尾状の花穂は曲線を描いて湾曲しますが、オカトラノオのように横になびかず下垂します。また、植物体の色が青緑色であり、葉は狭い楕円形でオカトラノオのように先端は鋭く尖りません。さらに葉や茎が多毛で、とりわけ茎の毛が密生し、白く開出している特徴はオカトラノオとの重要な区別点です。また、オカトラノオとヌマトラノオとの雑種イヌヌマトラノオは花穂が湾曲するものと直立するものが混じることや、茎の毛は少なく、褐色の縮毛や短い腺毛であることで区別できます。

ノジトラノオの
茎の白毛

	ノジトラノオ	オカトラノオ
虎の尾状の花穂	横になびかず下垂	横になびく
植物体の色	青緑色	明緑色
狭い楕円形の葉の先端	鋭く尖らない	鋭く尖る
葉や茎の毛	白色の開出毛が密生	褐色短毛がまばら

ところで、今回の玉川上水緑道のフロラ調査を通じ、ノジトラノオの生育地には、多摩川の河川堤防以外ではあまり見かけない低木ヒトツバハギも多産することがわかりました。ノジトラノオやヒトツバハギの存在は、この緑道が都市部において草原植物の多様性保全にも大きく貢献する歴史・自然遺産であることを示しています。(内野秀重)

文献から探る東京の植物 ② 『奥山春季植物採集記録抄』

奥山春季(1909-1998)といえば、国立科学博物館員として自ら全国各地の植物を記録し、約 200 エリアのフロラをまとめた「採集・検索日本植物ハンドブック」(1974 年八坂書房刊)の著者として知られている。これは、当時として追従を許さない画期的な国内植物ガイドブックであった。さらに、そのバックデータであり、氏の植物採集の足跡を整理した『奥山春季植物採集記録抄』も、後輩たちが氏の業績をたたえて編集した私家版的刊行物(1991 年)でありながら、とても興味深い内容である。18 歳の勉学時代から科学博物館時代、そして退官後の 79 歳まで、よくぞこれだけ長く全国津々浦々を歩き回って植物採集と、記録をとり続けたものだと驚かされる。また、東京各所での古い採集記録には目を見張るものがある。



奥山春季先生 加藤八州画(昭和 38 年)
「奥山春季植物採集記録抄(大正 1991 年刊)」より

例えば、「国立・国分寺付近:東京植物同好会にてノジトラノオ、モリアザミ、ゴマノハグサなど 71 点(1927.10.9)」「小合溜(葛飾区):タチスミレほか(1928.5.19)」といった貴重な記録が残されている。この短報だけで 20 世紀前半の東京の自然の豊かさを実感させるに十分である。全国各地の植物分布を視野に入れながら、東京各地の自然にも目を向け、いくつかの植物名を列記するだけで見事にその地域の自然性を表出させているのは、氏の日本の植物に対する深い知識と経験のなせる業としか言いようがない。



葛飾区・北区・国立市・国分寺市位置図

なお、本書の後半には氏の思い出に残る採集苦労談が「日本植物探訪記」としてまとめられ、全国各所の固有植物との出会いや植物研究についての思いが綴られている。その中でも「1934 年 5 月 31 日、明治期からの絶好の植物採集地であった浮間が原(北区)に残っていたマイヅルテンナンショウを 1 株採集」、また、「1959 年 8 月 15 日、小合溜(葛飾区)にて手漕ぎボートで池中をまわってヒシモドキを採集した」などの特筆すべきエピソードが記録されており(両種は東京都の野生絶滅種)、東京の植物史に関心のある者にとっては、おろそかにできない内容である。



かつて東京区部に自生していた
マイヅルテンナンショウ
(渡良瀬遊水地産植栽品)
2024.5.15



八王子市内の緑地で栽培されて
いたヒシモドキ 2006.6.7

他にも、ユニークな「原色日本野外植物図譜」の刊行やアズマシライトソウの新種記載など、奥山春季氏の功績は多岐にわたる。さらには、国立科学博物館時代に先達の助力を得ながら数多くの植物採集会を開き、博物館恒例のおしば展の開催によって在野の植物愛好家・研究者を多数輩出させたことは氏の最大の業績と言ってよいだろう。
(内野秀重)

専門員植物相調査記録

場所、日付・ご協力団体、確認・記録した主な種

●本土部・区部

- ・板橋区四葉 (4/12) タマノカンアオイ
- ・杉並・中野区妙正寺川流域 (5/8) ナガエミクリ、ハタケニラ等
- ・江東区亀戸旧中川周辺 (5/25) ホコガタアカザ、ナガエツルノゲイトウ等
- ・練馬区石神井公園 (6/3 認定 NPO 法人生態工房)
ツツイトモの確認と標本採集



タマノカンアオイ 2025.4
板橋区

●本土部・多摩地域

- ・町田市上小山田町 (1/4)
ヒメカジイチゴ、カタキノデ、マルバヤナギ、タカネマスクサ等
- ・日野市高幡不動尊内 (2/1) モトマチハナワラビ、テンジクスゲ等
- ・町田市相原町大戸緑地 (2/14) ハナワラビ類
- ・玉川上水緑道 (3/9、26) アマナ、シュンラン、クチナシグサ等
- ・清瀬市 (3/23) ヒロハノアマナ、ヒナワチガイソウ、ヒメザゼンソウ等
- ・八王子市東浅川町 (3/30) ヤマエンゴサク等
- ・八王子市元八王子町 (4/4)
イブキスミレ、トウゴクサバノオ、ミヤマエンレイソウ等
- ・八王子市上恩方町 (4/5) オオヤマカタバミ、カタクリ、イヌナズナ等
- ・府中市浅間山公園 (4/16 東京農工大) コイトスゲ
- ・瑞穂町内山口貯水池林 (4/30 瑞穂町郷土資料館) クサスゲ、ムクゲシケシダ等
- ・三鷹市大沢の里崖線 (5/7 NPO 三鷹創造協会、三鷹市)
ミゾホオズキ、キクムグラ、ワニグチソウ等
- ・小平・小金井市玉川上水緑道 (5/8) アカガシ、ノジトラノオ、ヒトツバハギ等
- ・八王子市館町・寺田町・川口町・暁町 (5/13)
オオバウマノスズクサ、エビモ、カザグルマ、ミヤコアザミ、ガクウツギ等
- ・八王子市小宮町・暁町 (5/1 パルテノン多摩) ニセカラクサケマン、シュロソウ等
- ・町田市山崎町ほか (5/22) シモツケ、ハナミョウガ、リョウトウイタチシダ等
- ・八王子市北野町湯殿川 (5/22) サヤシロスゲ、イヌスギナ等
- ・八王子南大沢都立大キャンパス (5/27)
ミゾコウジュ、シロバナミゾコウジュ、シロバナニガナ等
- ・三鷹市玉川上水緑道 (5/28) ヤブジラミ、カナリークサヨシ、ヒトツバハギ等
- ・立川市羽衣町 (6/8) カワヂシャ、ヒロハノコウガイゼキショウ等
- ・小平市玉川上水緑道 (6/8 玉川上水花マップネットワーク)
ノジオカトラノオ、ツルフジバカマ、カリガネソウ等
- ・小金井市玉川上水緑道 (6/13) ノジトラノオ
- ・八王子市別所長池公園 (6/16 NPO フェージョン長池)
ジュンサイ、ホシナシゴウソ等
- ・日野市百草 (6/26 日野市ふるさと文化財課) 市内初確認のオオツクバネガシ大木を調査



ミゾホオズキ 2025.5
三鷹市



ハナミョウガ 2025.5
町田市



サヤシロスゲ 2025.5
八王子市

●島しょ部

小笠原諸島

- ・父島 躑躅山～千尋岩方面 (2/17～20)
ムニンビャクダン、シマタイミンタチバナ、シマウツボ等

伊豆諸島

- ・新島 中央部 (3/6～7)
シチトウスミレ、シチトウハナワラビ、イシモチソウ等
- ・神津島 天上山、集落周辺 (3/21～23)
ミズスギ、イワタイゲキ、ヒノキバヤドリギ、シチトウハナワラビ等
- ・大島 西側の集落周辺 (3/23～25)
ナルトサワギク、オオキバナカタバミ、アツバスマレ、ミヤコグサ等
- ・八丈島 集落周辺 (5/25～27)
コハシゴシダ、ニオイウツギ等
- ・大島 三原山とその周辺 (6/22～24)
オオムラサキシキブ、シマヤマブキショウマ等
- ・式根島 全域 (6/28～30) スカシユリ等



シマウツボ 2025.2 父島



イシモチソウ 2025.3 新島



ニオイウツギ 2025.5 八丈島

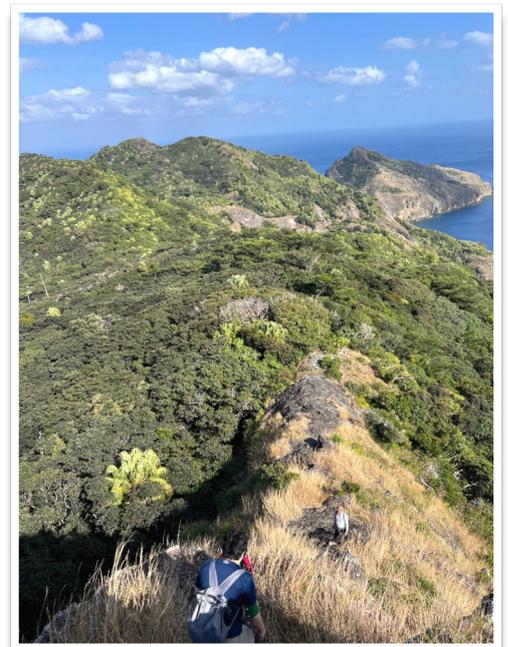


スカシユリ 2025.6 式根島

■ 編集後記

私は主に伊豆・小笠原諸島の調査を担当していますが、希望通りに調査を実施できたことはほとんどありません。時期によっては航空券や船のチケット、宿の手配が難しい上に、気象条件次第で定期便が運航しないこともしばしばです。昨年 12 月に小笠原に行った際は、定期船おがさわら丸のアンカーが欠落し、乗船予定の復路便も含めて運航の見通しが立たなくなるという前代未聞の事態が発生。父島の施設で自炊生活をしていた私は、慌ててスーパーに行ったものの、すでに生鮮品は消え、確保できたのは米一袋とインスタント食品のみ。食料争奪戦に敗北した私がかか八かで母島に渡ったところ、こちらの宿にはかなりの食料が備蓄され、一転豊かな食生活に支えられながら調査に集中することができました。結果的には定期船の運行再開が早まって予定通り内地に帰ることができましたが、まだまだ何が起こるかわからない島しょ地域の調査を楽しんでいます。

(加藤英寿)



2025.2 小笠原 父島にて

☒ 発行元・お問い合わせ先 ☎

★東京都立大学 牧野標本館
東京いきもの台帳 植物目録作成事務局
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
Email : tokyoflora-ml@ml.tmu.ac.jp
加藤、内野、市川、北野

★東京都環境局 自然環境部計画課
生物多様性戦略推進担当
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
都庁第二本庁舎 19 階 TEL : 03-5388-3548
内山、増澤、小林、片山、中村、深町、正田、佐藤